

DPチャートの集計とまとめについて

1 DPチャート集計（2023年度後期まで）

全体 2年生以上（旧DP）（学年は2023年度）

	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
大学全体（2年生～4年生）	2.56	2.52	2.45	2.54	2.32
短大（2年生）	2.80	2.72	2.71	2.67	
専攻科保育専攻（2年生）	2.89	3.10	3.13	2.89	3.08

大学学科別

	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
音楽学科4年生	2.44	2.24	2.55	2.58	2.34
音楽学科3年生	2.44	1.97	2.53	2.50	2.20
音楽学科2年生	2.60	2.76	2.93	2.70	2.28

	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
美術学科4年生	2.77	2.80	2.52	2.84	2.90
美術学科3年生	2.69	2.59	2.30	2.70	2.66
美術学科2年生	2.56	2.33	2.29	2.65	2.11

	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
地域社会学科4年生	2.57	2.73	2.15	2.46	2.55
地域社会学科3年生	2.25	2.77	1.91	2.46	2.27
地域社会学科2年生	2.39	2.20	2.61	2.34	2.21

1年生（2023年度入学生 新DP）（学年は2023年度）

	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
音楽学科1年生	2.48	2.56	2.79	2.25	
美術学科1年生	2.82	3.34	3.15	3.07	
地域社会学科1年生	2.18	2.61	2.84	2.28	
保育科1年生	3.01	2.88	3.62	3.40	
専攻科保育専攻1年生	3.80	3.59	3.25	3.49	3.30

2 ディプロマ・ポリシー（2年生以上のカリキュラム対象）

①音楽学科

- 1 主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）
- 2 音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
- 3 音楽による相互交流を通して、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
- 4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
- 5 正統的な演奏技法及び専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

②美術学科

- 1 主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
- 2 現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
- 3 西洋及び日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
- 4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
- 5 4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

③地域社会学科

- 1 主体的に地域社会における課題を見出し、解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。（自律性）
- 2 フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。（課題発見・社会貢献性）
- 3 地域社会の企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験を通して、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。（協調性）
- 4 コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
- 5 社会人として必要な基礎力（コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など）を基盤とし、社会学のさまざまな分野（地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど）における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

④保育科

- 1 建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。
- 2 幼児教育・保育にかかわる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。
- 3 社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。
- 4 各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。

⑤専攻科保育専攻

- 1 建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。
- 2 幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。
- 3 社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。
- 4 各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。
- 5 一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。

3 ディプロマ・ポリシー（1年生のカリキュラム）

①音楽学科

- 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
- 2 自律性：主体的に課題を発見し、目標達成のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
- 3 課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、音楽を通して解決を図ることができます。
- 4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

②美術学科

- 1 基礎的汎用的スキル：人のもつ多様性を認め、コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけることができます。
- 2 自律性：主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。
- 3 課題発見・社会貢献性：現代社会の多様な問題について関心をもち、美術・デザインを通して問題を提起し、解決を図ることができます。
- 4 知識活用：4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。

③地域社会学科

- 1 基礎的汎用的スキル：コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。
- 2 自律性：主体的に課題に取り組み、目標達成に向けて持続的に努力を重ねることができます。
- 3 課題発見・社会貢献性：調査・研究を通じて社会の現状を深く分析・考察し、地域社会の課題発見やその解決に向けて積極的に貢献することができます。
- 4 知識活用：社会人として必要な基礎力を基盤とし、社会学のさまざまな分野における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。

④保育科

- 1 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探求する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。
- 2 知識理解：幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。
- 3 協調性：社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。
- 4 知識活用：各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。

⑤専攻科保育専攻

- 1 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。
- 2 知識理解：幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。
- 3 協調性：社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。
- 4 知識活用：各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。
- 5 論理的思考力：一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。

4 集計結果について（学修支援センターの分析から）

音楽学科 3 年生の DP2（課題発見・社会貢献性）と地域社会学科 3 年生の DP3（協調性）が目立って低い GPA となった。これらについては、実施機会とサンプルが少ないので推測するしかないが、音楽学科では DP2 に関連する 3 年次配当のオンデマンド科目で特に十分な GP を修得できていない学生が見受けられる。

また、地域社会学科では、DP3（協調性）の対象科目のサンプルが少なく、参考にすることができない。2023 年度からの新 DP では「協調性」について見直し、基礎的・汎用的スキルに組み込むこととした。

今後については、複数年度に渡って集計を行いつつ、ディプロマ・ポリシー達成度調査などの直接評価の結果を参考にしつつ、DP の偏りを精査し、カリキュラム改訂の参考にしていく。また、科目に設定されている DP について見直しを行う。現在は、1 科目に複数の DP が紐づいているが、これについて、重みづけすることを検討していく（例：科目 A（DP1:50%、DP2:20%、DP4:30%）等）。